

わたしの「今年の漢字」2020

K. H. さん：「票」

今年は、コロナ、コロナで過ぎましたが、もう一つ、世間の関心を集めたのが選挙です。私も大いに、関心を持って、見守りました。先ず、日本の首相、これは、恣意的な大差で新首相が選ばれました。次に大阪都構想、予想に反して否決されました。最後に、アメリカ大統領、僅差でバイデン氏が選ばれました。来年、世界情勢が動くと思われます。

H. M. さん：「辛」

今年はずっと体調が良くなく、気持ち的にも前向きになれず、あらためて健康が一番だと実感しました。

H. K. さん：「結」

後ればせながら、スマホデビューしました。なかなか会えない日々も、人とつながっているようでした。来年は少しでも落ち着いた年に！という皆の思いが実を結びますように。

(これは、コロナに関係してるでしょうか。関係ないのをひとつ)

H. K. さん：「俳」

二月に俳人の夏井いつきさんの講演を聴きに行きました。以来、歳事記をよくながめます。普段の暮しも多くの季語に包まれています。さて、来年は一句捻ってみましょうか。

N. H. さん：「醒」

映画「パヴァロッチェ」を観て、歌手、声楽家、身体を楽器のように操り、吐く息の流れに様々な器官（声帯、喉、口蓋垂、舌、歯、唇、口腔、鼻腔、など）で調整し音を紡ぎ出し、表情、仕草、動作を加えて表現（内なるものを「表」に「現」す）活動を行っている人に、改めて着目させられました。それに関連し、ありとあらゆる技、巧、に専念している人の姿に頭が下がりました。

M. T. さん：「母」

私の母は、今年で92歳になりました。周囲の皆さんからは、とても92歳には見えないとよく言われて、脚は悪いのですが、元気の良い母です。その母が今年の3月、脳梗塞で救急搬送されました。幸い同居している妹（独身です）の判断が良く、すぐに救急車で専門の病院に入院したことで、今は元のデイサービスに週2で通うほどに回復しました。東京がロックダウンする前に駆け込みでお見舞いにいったときには、脳梗塞のせん妄で、あ〜このままボケてしまうのね...と妹とどうしよう〜と考えた時期もありました。でも、母の性格からかボケもかわいいもので、「私、嵐の松潤とディズニーランドに行ったわよね〜」なんて言い出す、プツとふきだすような、人

に嫌な思いをさせることのないボケでした。2 週間ほどでそのせん妄も治り、リハビリをして退院しました。

私たちはコロナのせいでお見舞いにも行けず、かわいそうに...と思っていたのですが、当の母は看護師さんたちに親切にしてもらって楽しく入院生活を送っていました。

どんな状況でもその場を楽しみ周囲に笑顔を振りまく母をすごいなあと思ったものです。

これから先もずっと気かけないといけない存在ですが、今年は「母」のことを始終気にかけて1年でした。

と、ということで今年の漢字は「母」です。

M. S. さん：「開」

一年を振り返ってみますと 人生初の猫がわが家にやってきて一緒に暮らすようになりました。そして春には長男が結婚して家族が増えました。コロナでおこもり生活の中ですが大きな展開があったので、わたしの今年の漢字は「開」です。

T. S. さん：「欲」

菊の栽培に取り組み今年で3年目。小菊のドーム、1本仕立ての福助、3本仕立ての大菊がそれぞれ見事に咲くと、その美しさに見入ってしまい、時間のたつのも忘れる。

しかし、それまでの段取り、手入れは本当に大変。ちっとも手が抜けない。

だから今年は欲を出さない、本数を減らすと決めたのに、気がつけば、なんと15鉢にも。あー、こんなはずじゃなかったのに。美しく珍しいのを見つけると、ついつい惑わされてしまう。

結果、手入れが行き届かず、満足できる仕上がりにもならず、大いに反省。

来年は絶対に欲を出さない。ドーンと減らして5本、いや7本にしよう!!

このぐらいが私の身の丈に合っているのかも・・・

N. A. さん：「青」

今年は青空と青い海をよく眺めて心を落ち着かせていました。JR 呉線の風早駅の裏山、保野山の東斜面に、京都の大文字送り火と同様に、「万」の字に火が灯されるのですが、いつも万の字が赤く灯っていたのとは違って、初めて星空に青く灯っていたのがとても綺麗で心にしみたのがわすれられませんでした。

私の今年の漢字は「青」でお願いいたします。

M. S. さん：「和」

初めて「お茶事」に招待され、巻紙で届いた招待状に初っぱなからビビりました。四苦八苦して返信し、慌てて着物の着付けを復習し、お茶事の流れを勉強し、久々に頭と体を使って疲れましたが貴重な場を共有させていただき感激しました。この体験により私に和ブームが再来し、来年は「書」もやってみようと思っています(巻紙の招待状に影響されている 笑)。

そういうわけで今年の漢字は「和」です。

R. Y. さん：「書」

訳あって一か月と少し、赤ちゃんのお母さん代わりをしましたが、身体の疲れは勿論、何より辛かったのは、本を手に出れなかった事でした。新聞すら読む余裕が無く、活字が恋しかったです。

今は余裕ができたものの、目の疲れと、集中力の低下で、読書にも体力が必要だと実感しています。

一文字は「本」でも良かったのですが、格好つけて「書」にします。

H. B. さん：「飛」

今年はこの状況の中、私の楽しみにしている旅行にも行けず、がまんの年でした。ただ仕事上、在宅でPCを使う機会が増え、出来なかったことが出来るようになったことは、自分にとって小さな飛躍かと。

来年もどうなるかわかりませんが、どこかに飛べることを願って「飛」にしました。